

川喜多 喬 教授 退職記念号によせて

この3月、経営学部の川喜多喬教授が定年退職を迎えられました。法政大学経営学会では、長年にわたって法政大学の研究、教育等に貢献された川喜多先生を讃えて、『経営志林』の本号を退職記念号として刊行することとしました。

川喜多喬先生は、1948年に大阪府に生まれ、東京大学文学部社会学科・同社会学研究科修士課程・博士課程で学ばれたのち、茨城大学人文学部専任講師・同助教授、東京外国語大学外国語学部助教授を経て、1990年4月に法政大学経営学部に教授として赴任されました。

以来、法政大学の教育と研究に多大な貢献をなされてきたことは周知の通りですが、2001年には経営学部執行部主任として現在の経営学部3学科体制を構想し、その基礎を築く等、大学組織に対する貢献にも特筆すべきものがあります。加えて、法政大学の新学部設立にも奔走され、2003年4月から新たに設置されたキャリアデザイン学部教授として出向し、2007年まで同学部の基盤を支えてこられました。また、こうした学内での活躍にとどまらず、積極的に学外に足を運び、東京都立労働研究所や労働省等の研究会・委員会に多数参画し、企業の職場・現場を熱心に踏査しつつ、夥しい数の実態調査報告書を世に問うていらっしゃいます。

川喜多先生は法政大学にて、2つの学部・大学院で教鞭をとられ、経営学部では「人材育成論」等の大規模講義を、夜間開講で多くの社会人大学院生を集めた大学院経営学研究科では「人的資源管理論」等の講義を担当されました。先生のユーモアを交えた博識ぶりから学部の川喜多ゼミナールが絶大な人気を保ち続けただけでなく、大学院では、その熱心な研究・論文指導の賜物として、大学院の川喜多研究室は多数の若手研究者を大学や学会に輩出しています。また、法政大学ロンドン分室長や法政大学の初代キャリアセンター長としてご活躍され、法政大学のグローバル化や就職支援においても多大な貢献をされました。

研究面では、産業社会学の立場から精力的に調査研究を進められ、本誌巻末の主要研究業績リストに掲載のように、社会思想をはじめとして、中小企業論や人材育成論、労働調査論等に関わる幅広い研究分野において先進的な研究成果を数多くあげてこられました。とりわけ、その執筆ぶりは質量ともに他を寄せ付けず、法政大学最後の1年だけでも計4冊の著書を刊行しておられます。また、自らリーダーシップを発揮して日本キャリアデザイン学会を設立し、初代会長を務める傍ら、学界に新たな分野を創出し、日本のキャリア教育・キャリア研究の創世期において大きな足跡を残されています。

このように、川喜多先生は24年にわたり法政大学に奉職され、研究・教育に尽力されました。この間の法政大学および経営学部の発展にかけがえのない貢献をなされたことは疑いありません。今後は法政大学を離れますが、今後とも益々のご活躍ご発展を祈念し、退職記念号刊行の辞とさせていただきます。

2014年4月

法政大学経営学部長

竹内 淑恵

